

こうやがわら
興屋川原遺跡

遺跡番号	平成16年度登録
調査回数	第4次
所在地	鶴岡市大字田川字興屋川原他
北緯・東経	38度42分40秒・139度45分04秒
調査委託者	国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所
調査原因	日本海沿岸東北自動車道（温海～鶴岡）建設
調査面積	1,200㎡
現地調査	平成19年7月2日～8月31日
調査担当者	齋藤健（調査主任）・福岡和彦
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社鶴岡工事事務所、庄内教育事務所、鶴岡市教育委員会
遺跡種別	集落跡
時代	古墳時代・奈良時代・平安時代
遺構	掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝跡・土坑・ピット
遺物	土師器・赤焼土器・須恵器・木製品・柱根 （文化財認定箱数：23箱）



調査の概要

興屋川原遺跡は、日本海沿岸東北自動車道建設に伴い、山形県教育委員会が試掘調査を行った結果、平成16年度に登録された遺跡である。

計画路線内全体の遺跡面積は15,000㎡に及び、東日本高速道路株式会社東北支社から委託を受け、平成17年度に第2次発掘調査として6,750㎡を、平成18年度には、8,800㎡について第3次調査を実施した。

今年度、財団法人山形県埋蔵文化財センターは、国土交通省から委託を受け、新たに工事用道路として使用さ

れていた1,200㎡について発掘調査を実施した。

興屋川原遺跡は、庄内平野の南西端部に位置し、鶴岡市街地から南西へ約10kmの鶴岡市田川地区と大泉地区にかけて所在する。遺跡は大山川右岸の沖積地上に立地し、周辺の地目は水田や畑地で、標高17mを測る。かつてこの辺りは湿地や微高地のある複雑な地形であった。

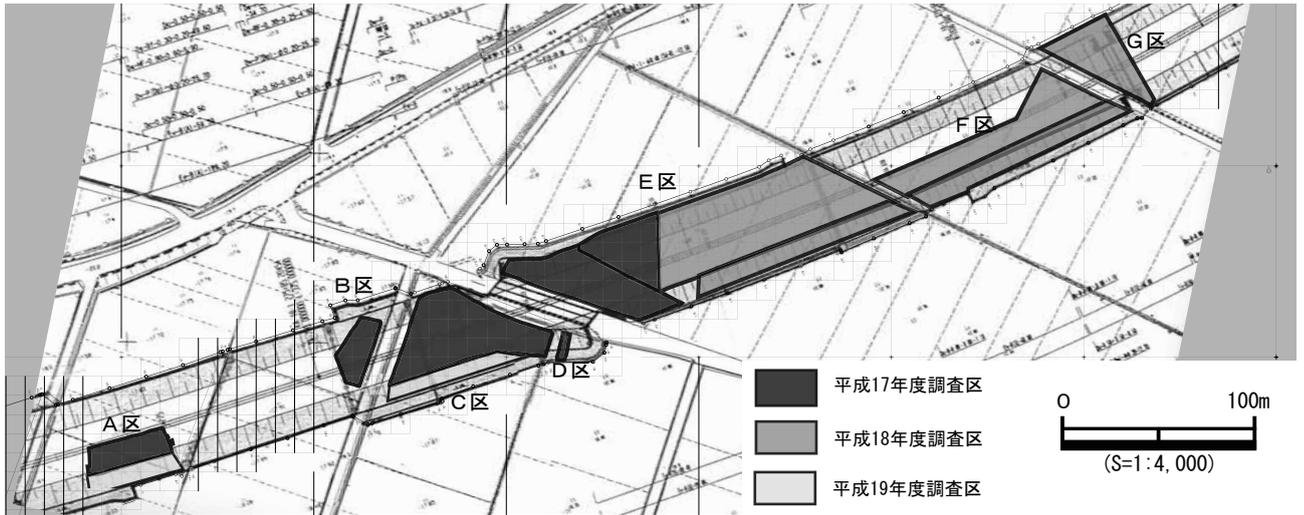
遺構と遺物

今年度A区では、17年度の調査で検出された平安時代の溝跡の続きのほか、掘立柱建物跡が1棟検出された。しかし、建物が調査区の外側にはみ出すため、正確な規模は不詳である。また、建物の柱穴には、樹皮がついたまま残っているものが多かった。

C区では、古墳時代の竪穴住居跡が1棟と溝跡、それから平安時代の溝跡、柱穴も検出された。また、竪穴住居跡からは、当時の土器である土師器や須恵器の蓋などがまとまって出土したほか、赤い顔料の付着した丸い磨り石も2つ出土した。

まとめ

今年度は、A区とC区の工事用道路部分の調査を行った。A区からは平安時代の掘立柱建物跡と溝跡が検出さ



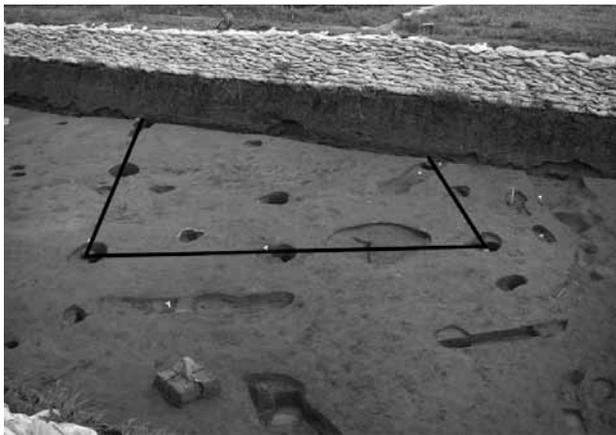
調査概要図

れた。C区からは古墳時代の竪穴住居跡と平安時代の溝跡、柱穴が検出された。

これまでの3カ年にわたる調査から、興屋川原遺跡では、大きく分けると古墳時代と奈良・平安時代の人々の

暮らしの跡が見つかった。

今後は、これら3年間の調査で得られた成果を慎重に検討しながら整理作業を進め、報告書にまとめていきたい。



A区平安時代掘立柱建物跡発掘状況（北東から）



C区古墳時代竪穴住居跡（北から）

